

2013年12月27日 全5頁

Indicators Update

11月鉱工業生産

増加基調が続く、生産計画も非常に強気

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年11月の生産指数は、前月比+0.1%と3ヶ月連続の上昇となった。市場コンセンサス（同+0.4%）からは下振れしたものの、生産の増加基調が続いていることを確認させる内容であった。出荷指数は同▲0.1%と3ヶ月ぶりの低下となったものの、在庫指数は同▲1.9%と4ヶ月連続で低下したこと、在庫率指数は同▲1.4%の低下となった。
- 11月の生産を業種別に見ると、全15業種中、8業種が前月から上昇、7業種が低下となった。上昇した業種に関して見ると、輸送機械工業、情報通信機械工業、化学工業の増加による寄与が大きかった。
- 製造工業生産予測調査では、2013年12月の生産計画は前月比+2.8%、2014年1月は同+4.6%と、非常に高い伸びを見込んでいる。はん用・生産用・業務用機械工業などを中心に、このところ予測修正率、実現率ともにマイナスでの推移が続いていることから、強気な生産計画に関しては、一定程度割り引いて見る必要がある。しかし、輸送機械工業の大幅な増産計画などは、増税前の駆け込み需要を見据えた動きの可能性があり、今後の動向を十分注視していく必要があるだろう。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年									
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
鉱工業生産	0.9	0.1	0.9	1.9	▲3.1	3.4	▲0.9	1.3	1.0	0.1
コンセンサス										0.4
DIR予想										0.1
生産者出荷	1.8	▲0.8	▲1.4	1.0	▲3.2	2.0	▲0.1	1.5	2.3	▲0.1
生産者在庫	▲1.2	▲0.7	0.8	▲0.4	0.0	1.6	▲0.2	▲0.2	▲0.3	▲1.9
生産者在庫率	▲2.6	2.3	▲5.1	▲2.1	5.9	▲0.5	1.8	▲2.1	▲3.7	▲1.4

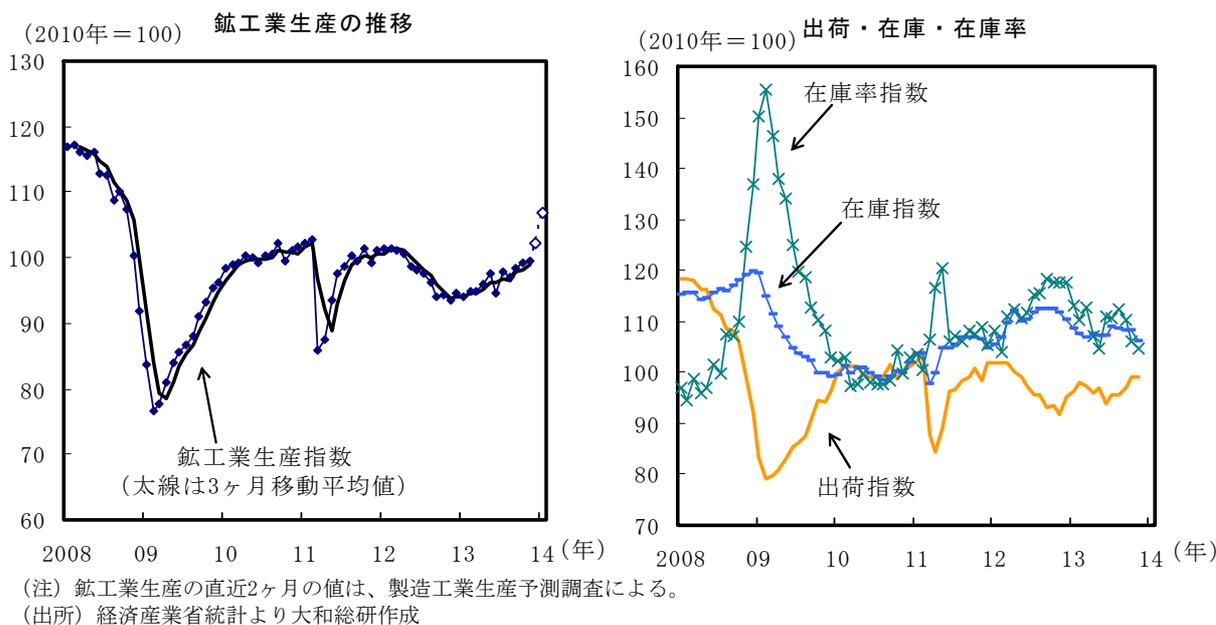
（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

11月の生産指数は3ヶ月連続の上昇

2013年11月の生産指数は、前月比+0.1%と3ヶ月連続の上昇となった。市場コンセンサス(同+0.4%)からは下振れしたものの、生産の増加基調が続いていることを確認させる内容であった。出荷指数は同▲0.1%と3ヶ月ぶりの低下となったものの、在庫指数は同▲1.9%と4ヶ月連続で低下したことから、在庫率指数は同▲1.4%の低下となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移



輸送機械工業、情報通信機械工業、化学工業が生産を押し上げ

11月の生産を業種別に見ると、全15業種中、8業種が前月から上昇、7業種が低下となった。上昇した業種に関して見ると、輸送機械工業、情報通信機械工業、化学工業の増加による寄与が大きかった。

輸送機械工業は前月比+0.7%と3ヶ月連続の増加となった。堅調な国内販売を背景に「軽自動車」、「小型自動車」が増加したことが全体を押し上げた。情報通信機械工業は前月比+3.9%と2ヶ月ぶりの増加となった。企業での買い替え需要の高まりから、「デスクトップ型パソコン」の生産が増加したことが主な押し上げ要因となった。化学工業は、住宅や建設資材向け材料の増加を背景に、前月比+1.2%と3ヶ月連続の増加となった。

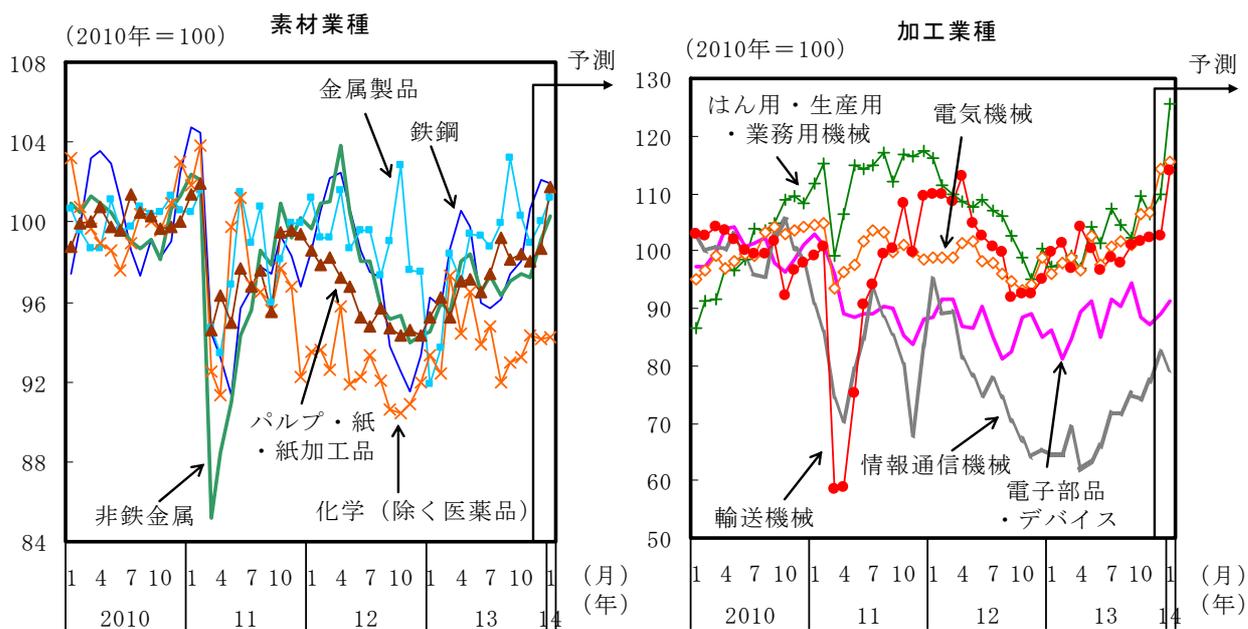
一方、11月に低下した業種に関して見ると、「はん用・生産用・業務用機械工業」(前月比▲2.9%)、「電子部品・デバイス工業」(同▲1.4%)、「金属製品工業」(同▲1.4%)の低下が生産の押し下げに寄与した。

製造工業生産予測調査では、非常に高い伸びを見込む

製造工業生産予測調査では、2013年12月の生産計画は前月比+2.8%、2014年1月は同+4.6%と、非常に高い伸びを見込んでいる。業種別に見ると、2013年12月については化学工業とその他を除く全業種で生産の増加を見込んでおり、総じて強気の内容。特に電気機械工業（前月比+7.2%）、情報通信機械工業（同+6.4%）で高い伸びを見込んでいる。2014年1月についても情報通信機械工業（前月比▲3.6%）、鉄鋼業（同▲0.2%）の2業種のみが減産計画となる一方、他の業種では増産を見込んでおり、全般的に改善傾向が続く見通し。なかでも、はん用・生産用・業務用機械工業（前月比+14.3%）、輸送機械工業（同+11.0%）が前月比二桁の高い伸びを見込んでおり、生産全体を押し上げる計画となっている。

はん用・生産用・業務用機械工業などを中心に、このところ予測修正率、実現率ともにマイナスでの推移が続いていることから、強気な生産計画に関しては、一定程度割り引いて見る必要がある。しかし、輸送機械工業の大幅な増産計画などは、増税前の駆け込み需要を見据えた動きの可能性があり、今後の動向を十分注視していく必要があるだろう。

主要業種の生産推移

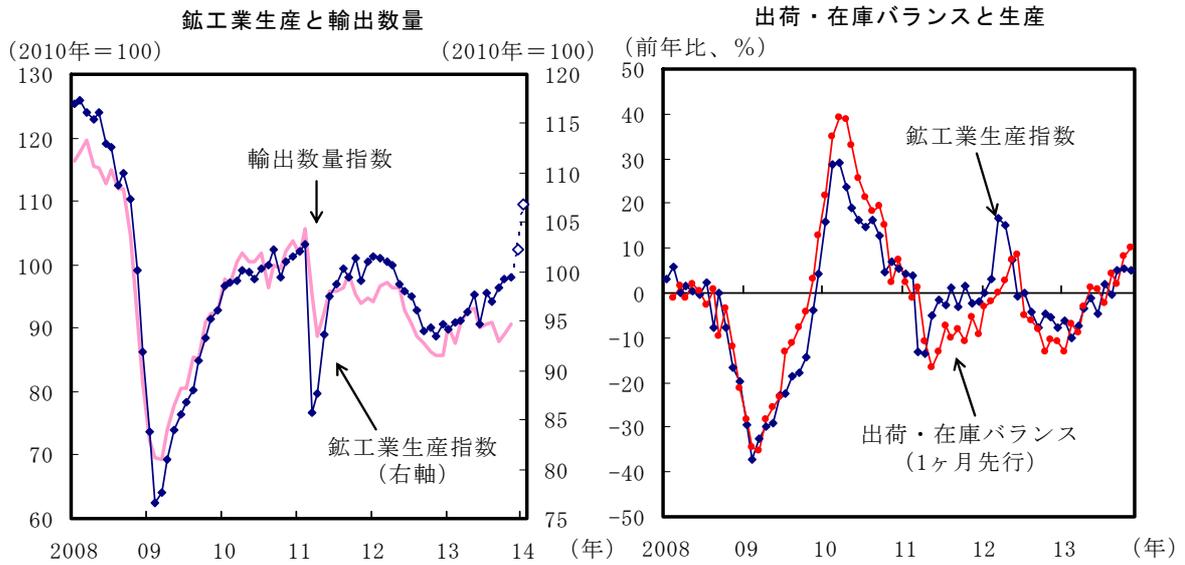


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

年度末に向けては内需の加速が生産を牽引

先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと見込んでいる。2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、耐久財を中心に個人消費が年度末にかけて加速する公算が大きいこと、公共投資が引き続き高水準で推移するとみられることから、内需の増加が当面は生産を牽引する見込み。また、生産と連動性が高い輸出数量の改善は、これまでのところ緩慢なものに留まっているが、円安の効果や米国を中心とした海外の景気拡大によって増勢を強める見込みであり、生産の増加に寄与する見通しである。

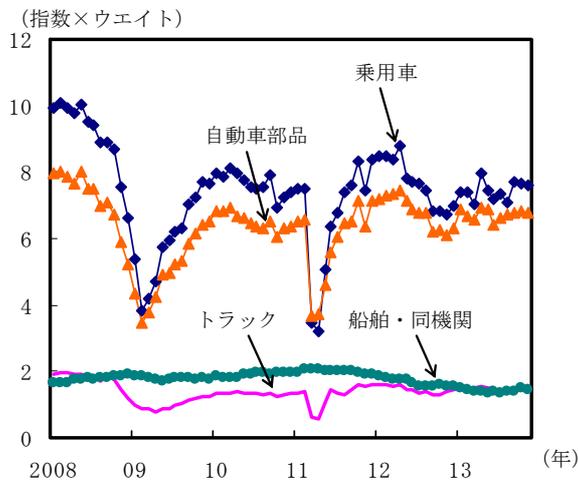
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



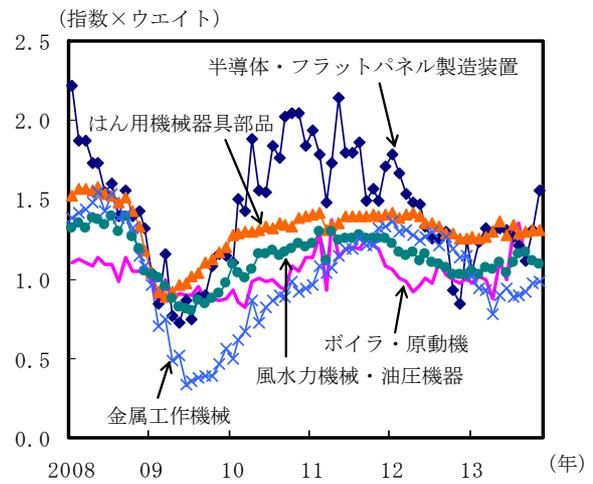
(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
 (出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

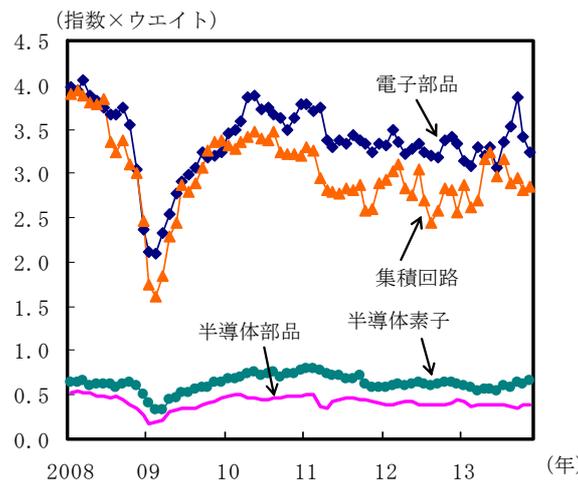
輸送用機械



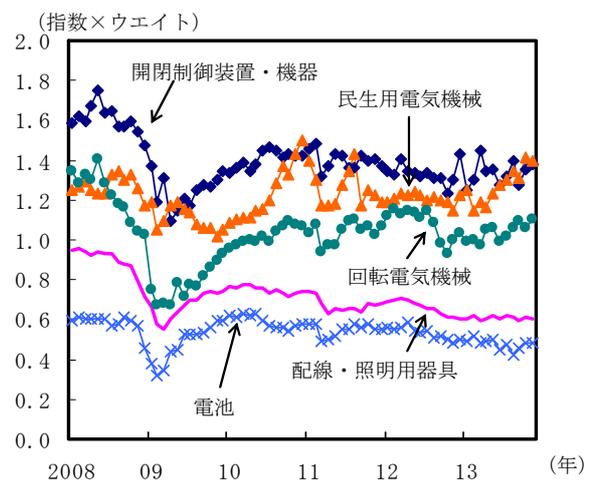
はん用・生産用・業務用機械



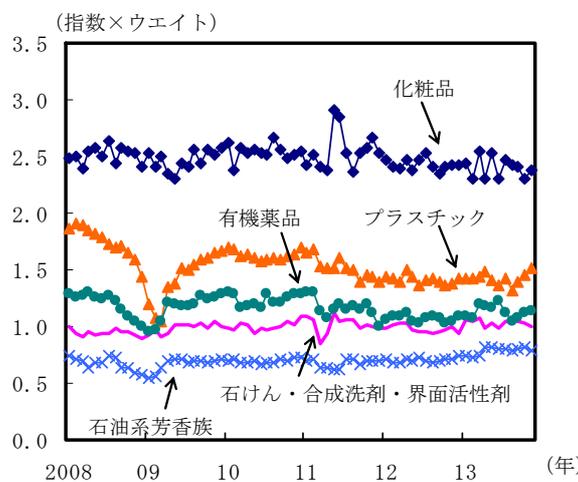
電子部品・デバイス



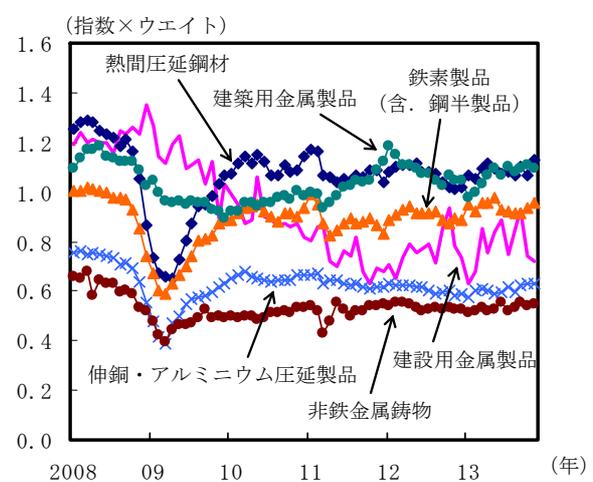
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成